

平成 30 年 6 月 20 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K03990

研究課題名(和文) 能動的参加としてのアクティブ・インクルージョンー新しい若者の社会的包摂の可能性

研究課題名(英文) Youth Active Inclusion as 'active participation'

研究代表者

大村 和正 (Ohmura, Kazumasa)

立命館大学・産業社会学部・非常勤講師

研究者番号：30571393

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：この3年間で次の調査を実施した。若者支援のNPOであるスマイルスタイルと日本センチュリー交響楽団とが連携して音楽創作活動を通して若者支援を行う「The Work」の毎年の活動を観察。大阪、神戸、京都の若者サポートステーションでインタビュー調査。京都府認定フリースクール「学びの森」が主催する若者支援に関する「南丹ラウンドテーブル2017：ユースワークをめぐって」、「京都ユースフォーラム2018：私の学び、みんなの学び」に参加して観察を行った。

これらの研究成果として、神戸大学国際文化学研究推進センターの研究報告書への投稿や社会政策学会関西支部での報告や、本科研の記録書を自主作成した。

研究成果の概要(英文)： In this project, in order to explore conception of “active inclusion”, we have researched about some activities of youth inclusion. For example, We have looked into “The Work” (this is youth inclusion programme of music by NPO Smile Style and Japan Century Symphony Orchestra), Youth Support Station in Osaka, Kyoto, and Kobe etc, “Mori of Manabi” (this private organization is to offer education of school absentee), ‘Young Mayor’ in London and Street Wise Opera in London. As a result of these researches, we got some knowledges.

In order to include youth, the necessary things are self-efficacy, self-confidence and self-transformation of youth. To foster these things, it is importance to offer peer-efficacy and experiences of activities by music, art, self-learning and social participation so on. These activities are not traditional discipline of training and education. We could see some important elements of youth active inclusion .

研究分野：社会政策、教育政策

キーワード：アクティブ・インクルージョン 若者 「能動的参加」 新しい社会的包摂 若者支援

1. 研究開始当初の背景

近年、学校から労働市場への移行をスムーズに行うことが困難な若年者や「不登校」のように学校教育から排除されている若年者の存在が大きな問題となっている。他方で若年者に従来型の就労支援とは異なる支援を提供している民間団体の活動や民間と行政との連携による事業が行われている。本研究は、このような民間団体や民間と行政による若年者支援の活動や事業の実態調査を通じて、従来型の就労支援や教育とは異なる、新しい社会的包摂の可能性やその課題を考察することを目指して開始された。

2. 研究の目的

EU は労働市場への参加のみならず、当事者の社会への参加を促進するアクティブ・インクルージョン (active inclusion) の理念を掲げているが、実際の政策は就労促進を重視する傾向が強いことが先行研究で指摘されてきた。しかし近年日本や英国などで、社会的に排除されている若年者が文化活動・料理・スポーツなどの諸活動に参加することで、社会への参加を促進している事例が認められる。本研究はこれらの活動を、若年者の「能動的参加」によるアクティブ・インクルージョンとして把握し、狭義の就労とは異なる、新しい社会的包摂のあり方を考察した。

社会的排除や社会的包摂概念は本来、貧困を低所得等の経済的次元の問題として理解するだけでなく、文化・社会的な側面を重視して、経済・社会・文化等、多次元的な領域への参加を通じて、排除されている人々の権利の実現を目指すものであった。また社会政策の領域において、当事者の「参加」の重要性が指摘されている。しかしながら、当事者の「参加」が具体的に何を意味しているのかは、先行研究で十分明らかにされているとは言い難い。また日本のみならず、欧米諸国において、実際の社会的包摂政策が就労促進の側面が強いことは先行研究でも指摘されてきた。

アクティブ・インクルージョンは 2000 年代に入って EU が打ち出した概念である。アクティブ・インクルージョンは、就労促進、所得保障としての社会保障、社会的サービスの改善を通じて、市民の労働市場への参加のみならず、社会への参加を促進する概念である。しかしアクティブ・インクルージョンを提起した EU の文書は、高齢者の社会参加の必要性等を述べているものの、当事者の「社会への参加」が具体的に何を意味しているのかを十分明らかにしているとは言い難いようにも思われ、全体的に労働市場への参加を促す側面が強いようにも思われる。多次元的な領域から貧困問題に取り組むという社会的包摂概念の本来の趣旨を踏まえ、本研究は EU が使用しているアクティブ・インクルージ

ョンの概念を、労働市場への参加に限定されない、当事者の能動的な参加による社会的包摂として把握することにした。様々な民間団体による若年者支援の実践や民間と行政との連携による事業を検討することで、「能動的参加」による若年者のアクティブ・インクルージョンの可能性と課題を考察することが目的である。

3. 研究の方法

英語文献や日本語文献による文献研究と、日本及びイギリスにおける本研究が対象とする事例の民間団体 (非営利団体、社会的企業など) やこれらの事業に関係する公的セクター (地方自治体の担当部署) 等へのヒアリング調査やこれらの活動の観察などの調査が本プロジェクトの研究方法である。

音楽創作活動を通じた若者支援プロジェクトの「The Work」は本科研プロジェクトの開始前の神戸大学国際文化学研究推進センターの研究プロジェクトの時から注視していたもので、「『能動的参加』としてのアクティブ・インクルージョン」を着想するきっかけとなった実践例の一つである。新しい若者支援の事例として、関西各地の若者サポステの事業や不登校状態の若者への教育を提供しているフリースクール「学びの森」に注目して調査を進めた。若者サポステは困難を抱える若者支援の事例として、「学びの森」は不登校という困難な状態にある若者に新しい教育活動を実践しているという点から本プロジェクトの課題である新しい社会的包摂であるアクティブ・インクルージョンと関連するように思われるため取り上げた。また「参加」を促進することを通じて若者の社会的包摂を推進している海外の事例として、英国の「若者市長」を、若者に限定した活動ではないが、音楽活動による社会的包摂の試みである英国のストリート・ワイズ・オペラを調査した。

4. 研究成果

本研究では、様々な民間団体や民間と行政の連携による若者支援の活動や事業の観察やヒアリング調査による、若者の社会的包摂政策のあり方やその課題に関して、以下のようない知見を得ることができた。

まず様々な調査対象の若者支援現場において以下のような共通の要素が認められる。民間団体による若者支援活動において若者の主体性や自己肯定感を尊重することが重視されている。就労困難な若者にせよ、就労しているが疎外感を持つ若者にせよ、不登校状態の若者にせよ、職場や学校などで負の経験をしてきて、自己肯定感が低く、社会への参加に消極的になっている状態となっていることが少なくないように思われる。このような若者を支援するプログラムでは、極力

当事者の主体性を尊重するような支援実践がなされている。ハローライフでの「The Work」のワークショップでは支援者が提示するテーマに関して、当事者間での話し合いがよく行われている。その際、相手のことを否定するような発言をしないことが原則とされている。参加者の若者の間でも発言することに関して、積極的な者もいれば、消極的な者もいる。一人一人の発言量には差はあるものの、「The Work」では参加者の全員が議論に参加している。ワークショップ後の振り返りで参加者は、これまでの学校生活や職場生活とは異なり、「The Work」に来て率直に自分のことを語りあえることができたと述べている。フリースクール「学びの森」でも、一人一人の主体的な学びを尊重しつつ、参加者一人一人が率直に発言できる実践がなされている。以上のことは、少なくとも「The Work」や「学びの森」の教育に参加している若者には、これまでの経験でこのような機会がなく、このことが彼らの社会への参加を困難にしてきた要因の一つでもあったと考えられる。

上記の若者の支援活動の調査では他に、当事者自身の変容が重要であることが分かる。各地の若者サポステで、支援のプロセスにおいて例えば、これまで引きこもりがちであった若者が少しずつ外出するようになることで、行動が積極的になっていったことなど、当事者の僅かな変化がその後の行動の変化につながっていくことが指摘されている。「学びの森」の教育活動でも、初め全く話さなかった若者がフリースクールに来ている間に、驚くほど話すようになる事例があることが語られている。

若者の自己肯定感や肯定的な変容が生じるうえで、これらを可能にするような環境や人間関係も重要である。これと関連して、「The Work」でも「学びの森」でも、ピア効果の重要性を指摘することができる。上記の活動において、参加当事者同士の対話や支えあい重要であることが覗える。この点も「The Work」、各地の若者サポステ、「学びの森」の活動に共通する特色とすることができ

る。本研究の様々な事例の調査から、若者支援や不登校状態の若者のへの教育において、当事者の主体性や自己肯定感を尊重し、当人の変容を促すような支援や教育活動が重要であり、そのためにはピア効果が発揮されるような環境などを提供することが重要であることを明らかにした点が本研究の重要な知見である。

従来型の就労支援や若者支援は、支援する側に一定の計画があり、この支援の計画に従って対象者を訓練していくという規律型の性格が強かったように思われる。これは学校教育にもある程度当てはまるように思われる。従来型の就労支援、若者支援、学校教育が対象者のある種の規律化・訓練を行うとい

う面が強いように思われるのに対して、本研究が取り上げている若者支援活動や教育活動は、支援する側や教育者の計画によって画一的な支援や教育、訓練を提供するのではなく、若者の主体性を尊重しつつ、自己肯定感や自己変容を促すような環境を提供するものであると言えよう。

しかしながらこれらの若者支援活動において、全ての参加者が肯定的な変容を遂げるなど、肯定的な効果が示されている訳ではない。就労できない若者や不登校状態となっている若者への支援活動において、比較的上手く次の段階に移行することが可能な若者とそれが困難な状態が続く若者である。就労支援を行っている各地の若者サポステの事業で、3ヶ月から6ヶ月程度で就労できる若者もいれば、1年以上たっても就労困難な若者もいる。「The Work」に参加している若者でも、実際に就労しつつプログラムに参加している若者や就労に結びつく若者が存在している一方で、プログラムに参加していても就労が非常に困難な若者やプログラムへの参加も持続しない若者もいる。フリースクール「学びの森」でも、大学進学など次のステップに進む若者もいれば、フリースクールへの参加が長続きしない若者もいる。次の段階への移行が可能な若者と困難な若者が存在することの要因を、本研究では明らかにすることはできなかった。例えば家族における何らかの要因や貧困、発達障害等が考えられるが、当事者へのインタビュー調査がごく僅かな者に限定される等、若者当事者の家庭状況等の社会的背景を十分調査することができなかったためである。この点は今後の課題としたい。

労働市場から退出していたり、不登校の状態にある若者の支援や教育のあり方として、支援する側の価値に即して画一的な訓練を提供するのではなく、当事者の主体性や自己肯定感を「承認」するような支援のあり方が、若者を労働や教育、社会への「参加」を促す上で重要であることが明らかになった点が本研究の重要な知見である。これは社会政策において少数派の価値を肯定することの必要性を主張する「承認」概念とも密接に関連しているように思われる。本研究で明らかにした知見に関して、この「承認」概念を用いて、さらに様々な事例を考察していくことが今後の重要な課題となると思われる。

本研究では、若干の英国調査も行った。2016年8月にロンドン南部のルイシャム区の、10代の青少年の投票により地域の青少年の代表を選ぶ「若者市長 (Young Mayor)」を調査した。「若者市長」は地域の若者政策に10代の声を反映させるための政策である。ルイシャム区の担当者と「若者市長」制度に参加している10代にインタビューしたところ、この制度の参加で自己肯定感の高まりや参加による自身の肯定的な変容など、上記の日本の若者支援活動と同様な要素が認められ

た。また若者に限定されないが、音楽活動を通じたホームレスの自立を促進するストリート・ワイズ・オペラのインタビュー調査でも音楽を通じた活動で自己肯定感が高まるような変容や仲間の参加者との活動によるピア効果など、こちらも本研究で調査してきた日本の若者支援活動と同様の要素を認められる。

「The Work」は就労実績という点で顕著な成果を挙げているとは言い難いのが現状である。しかし本調査でその活動を観察した範囲内で参加者当事者の間で自己肯定感が高まるような肯定的な変容が認められる。この点は本研究で調査を行った各地の若者サポステや不登校状態の青少年に教育を行う「学びの森」の教育活動、英国の「若者市長」やストリート・ワイズ・オペラの観察やインタビュー調査などを通じて、本研究の概念であるアクティブ・インクルージョンの要素を明らかにすることができた。これらから若者の支援において、就労実績に限定されない、アクティブ・インクルージョンとしての若者の社会的包摂のあり方やその問題点を本研究で明らかにすることができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

大村和正「若年者の社会的包摂の可能性と課題 『能動的参加』としてのアクティブ・インクルージョンの観点から」、『神戸大学国際文化学研究推進センター 2015年度研究成果報告書』、pp97 - 111、査読無

天野敏昭「文化活動を媒介とする若年者の就労支援 事例考察の分析枠組みの検討」、『神戸大学国際文化学研究推進センター 2015年度研究成果報告書』、2016、pp80 - 96、査読無、

[学会発表](計3件)

居神浩、「科研調査『能動的参加としてのアクティブ・インクルージョン 新しい若者の社会的敷設の可能性』について」、社会政策学会関西西部会第79回大会、2016年

天野敏昭、「若者支援政策の現状とオルタナティブな取り組みの可能性と課題」、社会政策学会関西西部会第79回大会、2016年

大村和正、「若者の社会的包摂におけるソーシャル・インパクトを考える 若者サポステの取り組みを中心に」、社会政策学会関西西部会第79回大会、2016年

[その他]
以下調査内容

2015年9月1日火曜日

インタビュー調査：インフォショップ・カフェ、ココルーム(大阪市西成区山王1-11)。上田瑕奈代(特定営利活動法人こえとことばとこころの部屋)にインタビュー。2:00~3:20pm。調査者：大村和正・天野敏昭・居神浩。

2015年9月28日月曜日

「アウラ学びの森」(亀岡市)を調査。北村真也(「アウラ学びの森」代表)、桜井淳(「アウラ学びの森」講師)にインタビュー。5:00~8:20pm。調査者：大村和正、居神浩。

2015年11月27日金曜日

インタビュー調査：非営利法人スマイルスタイル(大阪市) 6:00~8:50pm。塩山諒(スマイルスタイル代表)、古市邦人(ハローワーク・ワークコーディネーター) 和津田靖野。参加者：大村和正・天野敏昭・居神浩。

2016年3月23日火曜日

「The Work」インタビュー調査。調査協力者：五十嵐崇博。同席者：和津田靖野(スマイルスタイル)。調査者：大村和正・天野敏昭・居神浩。会場：スマイルスタイル(大阪市) 4:00~5:40pm。

2016年3月25日金曜日

「The Work」インタビュー調査。調査協力者：嫁坂歩美。同席者：和津田靖野(スマイルスタイル)。調査者：大村和正・天野敏昭・居神浩。会場：スマイルスタイル近くの喫茶店(大阪市) 2:00~3:30pm。

2016年3月27日金曜日

「The Work」インタビュー調査。調査協力者：稲葉めぐみ。同席者：和津田靖野(スマイルスタイル)。調査者：大村和正・天野敏昭・居神浩。会場：スマイルスタイル近くの喫茶店(大阪市) 10:00~12:00am。
[2015年度英国調査](大村和正、天野敏昭) 8月19日水曜日：LondonのLewisham Town Hall, Mayor's Office Civic SuiteでYong Mayorに関する調査。2:00~4:00pm。以下の方々にインタビュー。Malcolm Ball, Paul Chapman, Tyreese。

2016年5月30日月曜日

インタビュー調査：和津田靖野(スマイルスタイル) 調査者：大村和正・天野敏昭・居神浩。会場：スマイルスタイル(大阪市) 4:00~6:40pm。

2016年9月15日木曜日

大阪府若者サポートステーション調査(場所・エルおおさか：大阪市) 5:30~7:00pm。古市邦人(大阪府若者サポートステーション、非営利法人スマイルスタイル)。調査者：大村和正・天野敏昭・居神浩。

2016年10月24日月曜日

豊中市若者サポートステーション調査(場所・一般社団法人キャリアブリッジ：豊中市立青年の家いぶき3階) 4:00~6:00pm。

白砂明子(理事・統括責任者) 廣水乃生(代表理事) 長塩綾子(広報担当)。調査者:大村和正・天野敏昭・居神浩。

2016年10月31日月曜日

南大阪地域若者サポートステーション調査(場所・立命館大学大阪梅田キャンパス) 6:30~8:30pm。岡アユ(南大阪若者サポートステーション・統括コーディネーター、カウンセラー、NPO法人おおさか若者就労支援機構)。

調査者:大村和正・天野敏昭・居神浩。

2016年11月7日月曜日

京都市若者サポートステーション調査(場所・ウイングス京都・京都中京青少年活動センター:京都市) 5:00~6:40pm。竹久輝顕(公益財団法人京都ユースサービス協会・京都若者サポートステーション総括コーディネーター/チーフユースワーカー)。調査者:大村和正・居神浩・天野敏昭。

2017年2月24日金曜日

大阪若者ハローワーク見学・調査(場所:阪急グランドビル18階) 1:00~1:50pm。守下美里(厚生労働省・大阪わかものハローワーク・上席職業指導官・併任需給調整指揮官)。その後、近くの喫茶店でサポステ等の今後の研究・調査に関するミーティング。参加者:大村和正・天野敏昭・居神浩。

2016年9月6日

LondonのStreetwise Opera Officeにて。11:00am~1:00pm。Matt Peacock(Artistic Director)にインタビュー。調査者:天野敏昭、大村和正。通訳者:吉田万里。

2016年9月7日水曜日

LondonのLewisham Town Hall, Mayor's Office Civic SuiteでYong Mayorに関する調査。10:50am~1:30pm。Dr. Kalbir Shukra(Senior Lecturer Goldsmith University of London)。Nicola Marver(International Partnerships & Projects Officer)、等。調査者:大村和正、天野敏昭。通訳者:吉田万里。

2016年度4月25日から7月26日までの「The Work」の音楽創作活動(会場は日本センチュリー交響楽団等)と若者支援ワークショップ(会場はハローライフ)を観察。

2017年5月19日金曜日

こうべ若者サポートステーション調査(場所:特定非営利活動法人こうべユースネット、神戸市青少年会館5階) 4:10~6:40pm。佐伯隆義(特定非営利活動法人こうべユースネット統括責任者)等。

調査者:大村和正・天野敏昭・居神浩。

2017年5月27日土曜日

北河内地域若者サポートステーション(旧枚方若者サポートステーション)調査(場所:一般社団法人ステップフォワード、ひらかたサンプラザ1号館3階) 4:00~7:10pm。

・酒井信弘(統括コーディネーター) 尾崎

由之(就労支援事業リーダー)。

調査者:大村和正・天野敏昭・居神浩。

2017年6月2日金曜日

大阪市若者サポートステーション(コネクションズおおさか・大阪市若者自立支援事業)調査(場所:大阪駅前第2ビル4階) 4:30~6:00pm。

・中町康弘(所長) 高崎大介(若者支援事業担当部長)。

調査者:大村和正・天野敏昭・居神浩。

2017年度4月25日から8月28日までの、「The Work」の音楽創作活動(会場、日本センチュリー交響楽団等)と若者支援ワークショップ(ハローライフ)を観察。

本研究の考察を深めるために、以下のような研究会を行った。

2015年6月5日(金曜日): 初年度科研運営会議。会場:神戸国際大学・居神研究室、5:40~7:20pm。参加者:大村和正・天野敏昭・居神浩。

2015年7月8日(水): 2015年度第1回研究会。「ノンエリートのキャリア教育(居神浩編著『ノンエリートのためのキャリア教育論—適応と抵抗そして承認と参加』法律文化社、2015年)」、報告者:天野敏昭。現場報告 熊澤真里(公益財団法人・京都ユースサービス協会、京都若者サポートステーション学校連携推進事業担当、GCDF-Japanキャリアカウンセラー)。現場報告 上原裕介(公益財団法人・京都ユースサービス協会、京都市山科青少年活動センター/チーフ・ユースワーカー)。司会:大村和正、コメンター:居神浩、参加者7名。会場:同志社大学・新町キャンパス。

2015年8月10日(月): 「The Work」その他の科研・調査に関する運営会議。会場:JR大阪駅近くの喫茶店、6:30~7:50pm。参加者:大村和正・天野敏昭・居神浩。

2016年3月12日土曜日: 2016年度第2回研究会。「『就労支援を問いなす』視点—大阪府の調査を踏まえて」、報告者:櫻井純理(立命館大学産業社会学部)。参加者:大村和正・天野敏昭・居神浩、4名。会場:立命館大学・大阪梅田キャンパス(大阪市・富国生命ビル5階) 2:00~5:40pm。研究会後、会場近くの喫茶店で、3名で運営会議。

2016年6月11日土曜日、第1回研究会。

「イギリスの若者就労支援 Welfare to Work:ポーツマス大学ソーシャル・インクルージョン研究所教授ダン・フィン氏を招いて」。報告者ダン・フィン(Dan Finn):ポーツマス大学ソーシャル・インクルージョン研究所教授。通訳:Ackah Lionel(コンサルタント、講師) 西川由紀子(翻訳家)。司会:大村和正。共催:ローカル・ガバナンス研究会。

会場:第1部、龍谷大学・大阪梅田キャンパス、1:00~4:30pm。第2部、関西学

院大学・大阪梅田キャンパス、6:30~8:30pm.

2016年6月27日月曜日 「学びの森」調査や北村氏を講師に迎える研究会に関するミーティング。会場：長岡天神駅近くの喫茶店、6:00~7:30pm.参加者：北村真也・居神浩・大村和正。

[2017年度に実施した研究会]

2017年8月8日火曜日、第1回研究会
「若者サポステ調査の中間的総括と今後の調査・研究の検討」、報告：大村和正。

「大阪市若者自立支援事業コネクションズおおさか（大阪市こども青少年局）、こうべ若者サポートステーション、北河内地域若者サポートステーション、2017年度 The workの調査」、報告：天野敏昭。コメンテーター：居神浩。

会場：立命館大学・大阪梅田キャンパス、6:30~9:20pm.

2016年8月13日土曜日、第2回研究会。
「第79回社会政策学会関西支部企画案」、報告者：居神浩。「若者サポートステーションやEPICの調査に関する予備的考察」、報告：大村和正。「JILPTの若年者雇用テーマの研究成果から（2010年度公表文）」、報告：天野敏昭。会場：神戸国際大学・居神研究室、5:00~8:00pm.

9月26日月曜日、第3回研究会
「不登校から始まるもう一つのキャリアパス：フリースクールにおける機会開発教育」。報告者：北村真也（認定フリースクール「アウラ学びの森」代表）。「これまでの調査・研究からの知見 The Work, Street wise opera, 地域若者サポートステーション等での調査を中心に」、報告者：天野敏昭
他参加者：大村和正・居神浩。会場：同志社大学・新町会館、4:00~7:40pm.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大村 和正 (OHMURA, Kazumasa)
立命館大学・産業社会学部・非常勤講師
研究者番号：30571393

(2) 研究分担者

天野 敏昭 (AMANO, Toshiaki)
神戸大学・国際文化学研究科・協力研究員
研究者番号：40736203

居神 浩 (IGAMI, Koh)
神戸国際大学・経済学部・教授
研究者番号：70289057